

平成28年度 南信農業試験場試験研究の推進方向

技術開発の方向

- 南信地域は、なし、かきを始めとする果樹など多彩な作物が栽培されています。変化に富む気候や地勢を活かし、生産者や消費者の要望に応えるため、関係機関・生産者との連携を図りながら、地域に貢献する試験場を目指して、新たな品種育成、技術開発、情報発信に取り組みます。

試験研究のねらい

I オリジナル品種の育成、知的財産の保護・活用

- 日本なしの高品質品種の育成を進めます。

II 低コスト・省力化・高位安定生産技術の開発

- 樹体ジョイント仕立て法による日本なしの省力・軽労、低コスト栽培技術の開発を進めます。
- 食味が優れ、主要な病害に強い日本なし「サザンスイート」の高品質安定生産技術や農薬の削減技術、早期成園化の開発に取り組みます。

III 環境にやさしい生産技術の開発

- 農薬を減らした果樹の病害虫防除技術の開発に取り組みます。
- 化学肥料を削減して環境負荷が少ない果樹の減肥栽培法を開発します。

IV 地球温暖化対策技術の開発

- 温暖化による日本なし品種の休眠への影響把握を進めます。
- 温暖化に伴うなしおよびかきの病害虫発生生態調査と防除技術の開発を進めます。

主要課題とその内容

I 日本なしの新品種育成（H25～29年）

- ・ 交雑育種法により、果実品質が優れ、病害複合抵抗性を持つ日本なし新品種の育成を進めます。

II-1 樹体ジョイント仕立てによる日本なし「南水」、「サザンスイート」の早期成園化・省力栽培技術の確立（H25～29年）

- ・ 「南水」ジョイント仕立てに対応した、効率的な窒素施肥法の開発を進めます。

II-2 「サザンスイート」の栽培管理技術の確立（H26～29年）

- ・ 食味が優れ、主要な病害に強い早生日本なし「サザンスイート」の特徴を活かし、高品質な果実を安定して生産できる技術の確立に取り組みます。

III-1 もも、なしの高品質・安定生産を実現する病害防除技術体系の実証研究（H28～30年）

- ・ 日本なし黒星病の被害を軽減する効率的防除技術の開発を進めます。

III-2 「市田柿」原料かきを主体にしたかき園に対する効率的施肥法の開発（H25～29年）

- ・ 低樹高を基本に市田柿の適正窒素施肥量を把握し新たな窒素施肥水準における生育や収量への影響を検討します。

III-3 なしを主体にした樹園地の環境保全型土壌及び施肥管理技術の確立（H25～29年）

- ・ 「幸水」に対する有機質肥料の土中施肥による減肥栽培について検討します。

IV-1 地球温暖化が日本なし栽培に及ぼす影響評価と対策技術（H25～29年）

- ・ 主要品種の低温要求量、休眠深度の季節的変動と発芽、開花への影響を調査します。

IV-2 南信地域における果樹病害虫の発生生態の解明と効率的防除技術（H25～29年）

- ・ 温暖化に伴う、なしおよびかきの病害虫発生生態を調査します。